

**2014年11月7日**

第77号

発行：日本臨床検査技師連盟

発行責任者：宮島喜文

編集担当者：椛山広美

日本臨床検査技師連盟ニュース

◆◆**連盟ニュース**◆◆

今号の主な内容

◇日本臨床衛生検査技師会支部学会での技師連盟活動報告

## ◇日本臨床衛生検査技師会支部学会での技師連盟活動報告

平成26年度技師連盟の活動として、日臨技支部学会で連盟ブースを設置して連盟の入会促進および連盟活動の広報を行いました。連盟ブースには、のぼりを揚げハッピーを着たスタッフが連盟参加を呼びかけました。今号では、九州支部学会、中部圏支部学会での活動を報告します。

11月1日（土）・2日（日）の両日、九州支部学会が真夏の暑さが残る沖縄において開催された。会場は宜野湾市の沖縄コンベンションセンター。会場の一角に日臨技連盟のブースを設置し会員の連盟加入促進を行った。中四国ブロック長が言われていた「関心が薄い。認知されていない」これは九州ブロックにも当てはまる言葉であることを痛感した。

一人一人に連盟のチラシを渡し説明していくと「わかりました」の返事がかえってきたが、入会していない原因は「会費納入が不便」が多く寄せられた。

日臨技会費と同時引き落としが始まれば、以前のように多くの会員が連盟活動に参加してくれることと推察する。

今回設営していただいた宮城沖縄県支部長をはじめ九州各県支部長には多大なるご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

九州ブロック長 長迫 哲朗



平成 26 年度 日臨技中部圏支部「第 53 回医学検査学会」が富山県臨床検査技師会の担当で平成 26 年 9 月 27・28 日の両日 富山国際会議において開催されました。技師連盟も学会開催日に会員等へ連盟活動の周知と加入勧誘活動を行いました。

「連盟をもっと身近な存在に！」のパンフを持参し、ロビー活動を実施しました。MESSAGE の 1) 身分・地位向上に不可欠は理解できるが、2) 「数の力」 3) 国政に反映 4) 県に連盟支部 この辺から年齢層にギャップを感じた。若い人達は、誰かがやってくれる！いつかは必要であろうが！誰が国政に出るの！年会費は必要なの（誰が何に使っているの）！連盟支部の存在すら知らない！ 中でも 6) 公務員でも加入できる えっ！が多かった。 会員目標 1 万人！が低すぎる意見もあり、会員数 6 万人達成を目指しているなら最低でも 3 万人位をパンフに載せないと駄目だと！いろいろな意見・感想・叱咤激励を聞くことができ、ロビー活動も良かったと感じました。（会員と身近に接し生の声が聞けて、良い取り組みであったと） しかし、富山県のレベルの低さに唖然とする。技師会トップの認識の甘さと会員（県民性）の理解度の低さに、加入者数 4 名が現れている。自分の力不足を痛感させられた。

また、今回の中部圏支部学会では、18 名の方にご加入いただきました。申込書（18 枚）と会費（計 2 万円）は、払込み手続きとその手数料を鑑み、10 月 11 日の日臨技理事会時に、連盟事務局に直接お渡しするとして各執行委員の承諾のうえお預かりしています。（山口談）

ブロック会議では、各県で地道な啓蒙と勧誘活動を継続して行なうこととし、また連盟への要望として入会手続きの簡略化、活動内容が見えるよう報告を求める、会費使途の公開を希望するなどの意見がだされました。

今後、会員向けのパンフに Q&A 形式で意見・感想を載せ、より理解の得やすい広報活動が必要である。各県の執行委員の地道な活動が、将来へ向けて「木」を植え・「花」を咲かせ・「実」をつける第一歩ではないでしょうか。

中部の執行委員の皆様の取り組みや活動内容は非常に参考になり、有難うございました。

富山県執行委員 畑 隆弘

